

何事でも自己中心や虚栄からすることなく、
へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。
自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。

新改訳聖書 ピリピ人への手紙 2章3～4節

『他者への敬意』

現代社会はSNSの普及もあり、匿名でどんな立場の人に対しても安易に批判し、侮り罵倒するなど自由放縦である。職員や入居メンバーにも、そのような社会の風潮の中で「敬う心」を身につけずに生きてきた姿を多く見る。責任を担う立場にある方への感謝や尊敬が見られない。互いに敬意を持たずに批判する。人生の中で相手の立場になって思いやることがなかったのかと呆れることがある。そういう自己中心な生き方は人間関係を破壊し、人生をつまらなくし大きな損失をもたらしている。それを今、リハビリフェローシップの中で語っている。

かくいう私も“しらけ世代”と言われる世代であり、安保世代、団塊世代の次の世代として、どこかしらけた世代である。「敬う」ことをないがしろにしてきた結果、「叱る、注意する、育てる」ことに躊躇し迷い続けている。

熱心に注意指導する気になれない、叱れない。それは私自身の姿であり、今に至るまで悩み苦しんで来たことだ。今更ながら、自分自身が無意識に、悪気なく、それを大切にしてこなかったことを悔やんでいる。そして今改めて、立場ある人への「尊敬」、互いへの「敬意」という人として当たり前の「敬う心」を養い育てないと、教えないと、と痛切に感じる。

だからこそ、今、始めようと思う。

立場ある人を「敬う」ことを、互いに「敬う」ことを。

2025年5月恵日

特定非営利活動法人ハートフルトボス理事長 坪倉 正史